

令和8年度 近畿大学 大学院商学研究科 博士前期課程
一般入学試験問題 【専門科目】 (2026. 2. 21 実施)

注意：①6科目中2科目選択。
(9問中2問を解答すること。ただし、2問とも同一科目での選択は認めない。)
②解答用紙には受験番号、氏名、科目名、選んだ問題番号を必ず記入すること。
③問題用紙にも受験番号、氏名を必ず記入し、解答用紙とともに提出すること。

科目名	問題番号	問 題
商学	1	国際商業会議所（International Chamber of Commerce－ICC）の果たす役割について説明しなさい。また、ICCが制定する代表的な国際規則である、信用状統一規則（The Uniform Customs and Practice for Documentary Credits－UCP）の2大原則（独立抽象性の原則、書類取引の原則）について、信用状取引に及ぼす影響について解説しなさい。
	2	マルカム・P・マクネアの「小売の輪」理論の考え方とその課題について説明しなさい。
経営学	3	チャンドラー（Chandler, A. D., Jr.）の研究によって知られる「組織は戦略に従う」について、①どのような対象のいかなる分析によって導かれたものか、②このフレーズが示す組織と戦略に関わる研究成果とはどのような内容であるのか、の2点について説明しなさい。
	4	経験効果とは何か、簡潔に説明しなさい。また、経営戦略論の中で「経験効果」の概念を用いている理論をひとつ挙げ、その理論の概要を述べなさい。
会計学	5	多品種少量生産を実施する企業において、操業度基準により製造間接費を製品に配賦する問題点と、活動基準原価計算（ABC）により製造間接費を製品に配賦する利点を説明しなさい。簡単な数値例を示してもよい。
	6	会社分割（吸収分割）の債権者異議手続の対象となる取引債権者（不法行為債権者を除く）に関して、吸収分割株式会社側は「吸収分割後吸収分割株式会社に対して債務の履行…（中略）…を請求できない吸収分割株式会社の債権者」と規定されている（会社法789条1項2号）。これに対して、吸収分割承継株式会社側は「吸収分割承継株式会社の債権者（会社法799条1項2号）」とだけ規定されている。なぜこのような違いがあるのかを説明せよ。なお、この会社分割の対価は全て吸収分割承継株式会社の株式であるものとする。また、いわゆる「詐欺的（濫用的）会社分割」については論ずる必要はない。
ITビジネス	7	生成系AIがハルシネーションを起こす仕組みについて「尤度最大化」「事実検証モジュールの非内在性」「文脈補完バイアス」の3つのキーワードを用いて説明を行い、その上で学術研究において生成系AIを利用可能な研究フェーズについて論じよ。
キャリア・マネジメント学	8	コミュニケーションについての定義を述べてください。その上で、「沈黙」をどのように捉えるかについて述べて下さい。
スポーツマネジメント	9	日本スポーツ協会（JSP0）が開設している「スポーツにおける暴力行為等相談窓口」に寄せられる相談は年々増加している。運動・スポーツ活動における暴力・ハラスメントの原因について詳しく論じなさい。

商学研究科	受験番号		氏名	
-------	------	--	----	--

令和 8 年度 近畿大学 大学院商学研究科 博士前期課程
一般入学試験問題【専門科目】(2025.2.21 実施)

商学①

出題意図

貿易・ファイナンスの基礎である、国際規則に関する理解と、貿易代金決済方法への理解を総合的に問うもの。

解答例

＜特に太字下線部についての理解を重視＞

国際商業会議所(ICC)は、第 1 次世界大戦直後の 1920 年、国際商取引の促進を目的にパリに設立された民間団体である。ICC の活動は、①国際貿易(商品・サービス)と投資の促進、②自由かつ公正な競争の原理に基づく市場経済システムの発展、③世界経済を取り巻く様々な問題(環境、社会問題、等々)への提言、の 3 つであり、一貫して貿易取引に関する規則の制定活動を通じて国際商取引促進に資する活動を行ってきた。

信用状統一規則(UCP)とは、代表的な貿易代金決済方法の一つである、信用状取引に際して、信用状の円滑な利用を図るために、①信用状の基本的性格、②信用状の取扱、③用語の定義や解釈などの統一的基準、④関係当事者の権利・義務、を 39 条の規則として定めたものである。UCP の役割は、信用状についての統一された統一された取扱基準を定めることにより、関係当事者間の紛争を防止して、国際間の貿易取引の円滑化をはかることである。

独立抽象性の原則とは、信用状取引は、その基となる売買契約から独立した別個の取引であり、売買契約上の理由(商品の数量、品質、価格、船積等)でクレームが発生しても、それを信用状取引に持ち込み、支払または引受を拒絶するための理由とすることはできないというものである。独立抽象性の原則は、輸出者や輸入者といった売買契約の当事者及び、発行銀行や買取銀行等といった信用状取引の当事者の間で、それぞれ相互に不介入とすることで、円滑な取引を進めるためのものである。

書類取引の原則とは、信用状取引は、物品取引に関係なく書類中心で取引が行われるというものであり、銀行は、書類(documents)を取り扱うのであり、その書類が関係することのできる物品(goods)、サービス(services)または履行(performance)を扱うのではないと規定している。

【商学②】

■解答例

新しい小売業態は、低コストを実現する革新的な運営方法を開発することで、低価格による競争優位性を確立し、顧客からの支持を得る。その後、当該業態の成功により模倣者が出現すると、差別化を図るために高付加価値化が進み、運営コストは上昇し、当初の低価格による競争優位性は次第に失われていく。その結果、低価格を実現できる新たな参入余地が生じ、再び革新的な方法によって低コスト・低価格を実現した小売業態が登場し、新たに顧客の支持を得ることになる。

このように、「小売の輪」理論は、低価格を起点とした新たな業態の参入と、その後の競争や差別化による構造変化が循環的に生じることを示した理論である。

しかし現実には、新しい小売業態が必ずしも低価格を起点として参入するとは限らず、コンビニエンスストアのように、価格ではなく利便性によって競争優位を確立するケースも存在する。この点において、「小売の輪」理論は小売業態の展開を理解する上で有効な枠組みの一つであるが、すべての業態変化を説明できるものではないという課題を有している。

■出題の意図

「小売の輪」理論は、小売業態の変化や盛衰の過程を説明する古典的な理論として、流通論・商業論の教科書等において頻繁に取り上げられてきた基礎的な理論である。また、本理論は、小売業態の分析にとどまらず、競争の進展や差別化の過程といった観点から、多様なビジネス領域を考察する際にも参照可能な視点を含んでいる。

これらの点を踏まえ、本設問では、「小売の輪」理論を単に過去の理論としてではなく、現在においても有益な示唆を与える基礎理論として位置づけた上で、受験者が当該理論の内容およびその課題について、基礎的理解を有しているかを確認することを目的としている。

出題意図（評価の視点）

経営学③

米国における巨大企業の誕生にともない、それぞれの企業の発展の経路、戦略の違いに応じて、適合する組織構造を構築することが求められることを実証した研究である。Strategy and Structure(1962)で示された、経営戦略と経営組織という経営学の基盤となる理論構築に貢献した研究内容とその研究成果の理解を問うことを意図している。

【経営学④】

【解答例】

経験効果とは、製品の累積生産量が倍増するごとにコストが10%～30%低減する現象として測定されている。経験効果の発生要因には、習熟効果、専門化と作業方法の改善、新しい製造方法の開発と改善、生産設備の能力向上、資源ミックスの改善、製品の標準化、製品の設計改善などが挙げられる。

経験効果を用いた経営戦略論の一つとして、PPM(Product Porfolit Management)を挙げる。PPMは、多角化した事業への経営資源の配分を合理化するための手法である。PPMではSBU(Strategic Business Unit)を製品ポートフォリオ・マトリクス上に位置づけ、各SBUをどのように扱うべきであるのか決定する。この製品ポートフォリオ・マトリクスは、縦軸に「市場成長率」、横軸に「相対マーケットシェア」を持つ。そして横軸の理論的根拠となっているのが経験効果である。相対マーケットシェアは「自社シェア÷自社を除く最大競争相手のシェア」から求められる。経験効果の考えによると経験量が利益上の優位性の獲得へとつながることから、製品ポートフォリオ・マトリクスでは相対マーケットシェアが戦略上重要な判断を行う軸として用いられているのである。

参考文献:石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎(1996)『経営戦略論【新版】』有斐閣。

【出題の意図】

経験効果は経営学における基本的な概念のひとつである。経営戦略論の研究から特定の理論を選び、その枠組みの中で経験効果がどのように活用されているのかを論じることは、解答者の理解の深さを示すこととなる。

会計学 5 出題意図

製品原価の計算において、伝統的な操業度基準による製造間接費配賦と、活動基準原価計算（ABC）による製造間接費配賦の違いを理解しているかを問うている。伝統的な操業度基準による製造間接費配賦では、生産量が多く操業度の大きい製品に対して製造間接費が多く配賦される。一方で、活動基準原価計算（ABC）によれば、製造間接費を発生させる活動の消費量を基準に製造間接費が配賦される。以上の内容が数値例を用いて説明されていればよい。

会計学⑥

【問】会社分割（吸収分割）の債権者異議手続の対象となる取引債権者（不法行為債権者を除く）に関して、吸収分割株式会社側は「吸収分割後吸収分割株式会社に対して債務の履行…（中略）…を請求できない吸収分割株式会社の債権者」と規定されている（会社法 789 条 1 項 2 号）。これに対して、吸収分割承継株式会社側は「吸収分割承継株式会社の債権者（会社法 799 条 1 項 2 号）」とだけ規定されている。なぜこのような違いがあるのかを説明せよ。なお、この会社分割の対価は全て吸収分割承継株式会社の株式であるものとする。また、いわゆる「詐欺的（濫用的）会社分割」については論ずる必要はない。

※解答例に代わり、出題意図（評価の視点）を示す。

会社法の論点の中で、「会社分割（吸収分割）」に関する、極めて基本的な理解を問う問題である。

1. 債権者異議手続の趣旨と概要

合併・組織再編行為を株式会社が行う場合、その内容によっては存続株式会社等（会社法 794 条 1 項）の会社債権者を害する事態が生じうる。所定の要件を満たし、異議を適法に主張した債権者に対しては、「弁済」「担保提供」「弁済を受けさせることを目的とした（信託会社等に対する）相当の財産の信託」のいずれかの措置が取られ、債権者保護がなされる。

2. 吸収分割株式会社側の債権者

基本的に吸収分割において、目的となる事業部門から生じた債務（会社側から見た場合）を残存させるか、承継させるかは吸収分割契約において定められる。ここで、債権者から見ると、当該債権が対象に含まれてしまった場合、承継会社側に債務（債権者から見ると債権）が免責的に承継されてしまい、債権者に極めて大きな影響を与えるため、分割会社に対して債務の履行を請求「できない」債権者が債権者異議手続の対象となっている（会社法 789 条 1 項 2 号）。一方、債務の履行を請求「できる」債権者は対象ではない。これは、個別資産や事業の全部・一部を譲渡するときに異議を主張できないことと同じ趣旨である。

3. 吸収分割承継株式会社側の債権者

一方、吸収分割承継株式会社側の債権者は、吸収分割株式会社の権利義務を吸収分割契約の定めに従い承継する。この場合、吸収合併における存続株式会社と同様に、基本的に財産状態に変化が及び、債務（債権者から見ると債権）の履行の見込みに大きな影響を与えるため、債権者全体が異議手続の対象とされている。

(IT ビジネス⑦)

・出題意図

学術分野における生成系 AI 利用において、最も憂慮すべきは AI をどのように扱うかという判断である。中でも生成系 AI によるハルシネーションは研究の根底を揺るがすものである。そのためハルシネーションが生じる原因を正確に理解した上で、生成系 AI を研究にどう利活用するかを論述させることで受験者の知識と研究倫理の両面を問うことを目的とする。

・配点と採点基準

3つのキーワードについてそれぞれ以下のような内容についての記述を求める。

「尤度最大化」……言語モデルの数理的、設計思想的根幹であり「なぜ嘘が自然に生まれるのか」ということに対して AI は「知らないことを知らないと言えない」と言う事実が指摘できているか。

「事実検証モジュールの非内在性」……存在しない論文や法律、事例を提示する最大の原因であり、生成された文章が正しいことを検証する機能を持たないことが指摘できているか。

「文脈補完バイアス」……利用者の問いに曖昧さや不備があった場合でも生成を実行することで AI はそれを否定せずに生成を行うということが説明できているか。

上記3つの視点から、現在の生成系 AI は設計上の必然からハルシネーションを排除することが不可能であり、そのため「最終責任を伴わない工程」に限ってのみ利用を行うべきである。具体的には問題設定、仮説形成、検証の補助が生成系 AI 仕様の限界点であり、それ以外のフェーズでの使用を示唆する回答については、明確な理由や線引きが提示されている必要がある。

なお配点は3つのキーワードに関する説明が各15%で計45%、利用可能な研究分野の説明を55%とする。

【キャリアマネジメント学⑧】

コミュニケーションについての定義を述べてください。その上で、「沈黙」をどのように捉えるかについて述べて下さい。

(解答例)

コミュニケーションとは、何かを共有していく過程である。コミュニケーションは一方的な「伝達」ではなく、文脈に強く依存したプロセスであると捉えられる。

コミュニケーションは言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションに分類できる。「沈黙」は、非言語コミュニケーションの一形態である。「沈黙」は、文脈によって多様な意味を持つ高度に意味化された行為である。例えば、熟考・同意・拒否・緊張・敬意・配慮・感情の抑制など、「沈黙」は言葉以上に強いメッセージを伝える場合がある。特に人間関係が近い場合や、共有された前提知識がある場合には、「沈黙」そのものが相互理解の証として機能する。

また、文化的観点から見ると、沈黙の意味づけは大きく異なる。低文脈文化では沈黙が「消極性」や「意思表示の欠如」と解釈されやすい一方、高文脈文化では沈黙は「察すること」「間を共有すること」「関係性を壊さないための配慮」として肯定的に評価されることが多い。この違いを理解しない場合、沈黙は誤解や対立の原因にもなり得る。

以上より、「沈黙」は「何も伝えていない状態」ではなく、むしろ「何かを伝えているが、言語化されていない状態」として捉えるべきである。

(出題意図)

コミュニケーションという現象を、単なる「一方向的な情報の伝達」という狭い意味ではなく、「文脈（コンテキスト）に依存し、意味を相互に共有していくプロセス」として理解しているかを問うものである。特に言語コミュニケーションだけでなく、表情・態度・間・沈黙などの非言語コミュニケーションにも意味が含まれることを説明できるかを確認する意図もある。さらにコミュニケーションにおける文脈の重要性を、文化的観点（異文化コミュニケーション理論）にまで広げて理解しているかについても問いかけている。

R8 年度_大学院商学研究科_博士前期課程_専門科目（スポーツ・マネジメント⑨）

出題の意図：

運動・スポーツにおける暴力・ハラスメントは、様々な事例が発生しており、防止対策が十分に図られているとはいえない状況にある。暴力・ハラスメントの発生要因を複数の観点から詳細に述べられているかどうかを評価する。

解答例：

暴力・ハラスメントの発生要因として、指導者自身が、過去の運動・スポーツ活動において、指導者から暴力・ハラスメント行為を伴う指導を受けてきた経験があり、そうした指導が当然のものと思い込み、自分も同様の行為を行ってしまうという負の連鎖が挙げられる。

また、勝利や結果を重視する勝利至上主義の考え方も発生要因として挙げられる。大会や試合等において、よい結果が出ていた場合、被害者側も受け入れざるを得ないと思い込んでしまい、声を上げにくくなり、そうした行為が正当化されてしまうこともある。

さらに、指導者が十分に指導技術を習得しておらず、よい結果を出すため、指導技術の不足を暴力・ハラスメント行為に該当するような強い指導方法で補ってしまうことも発生要因に挙げられる。